

有機食品の扱い拡大へ

誕生30周年 シェア3割めざす

イオンのオーガニック&ナチュラルブランド「トップバリュ グリーンアイ」が今年誕生30周年を迎える。現在「トップバリュ グリーンアイオーガニック」「トップバリュ グリーンアイナチュラル」の2シリーズを展開。このうちオーガニックでは、さらに生産者とのパートナーシップ強化、商品の取扱い拡大などに取組み、2025年度までに国内オーガニック食品市場におけるシェア30%の獲得をめざす。

ニック食品プライベートブランドで、最大規模に成長している。誕生30周年を機に、生産者とのパートナーシップの強化、商品拡大などに取組んでいく。

「トップバリュ グリーンアイ」は、「安全・安心」「自然環境への配慮」にこだわり、1993年に「グリーンアイ」薬や、化学肥料をできるだけで使わずに栽培した農産物の取扱いを中心にスタートした。97年以降は畜産物、水産物、加工食品の展開を開始し、抗生物質や成長ホルモン剤を使わずに飼育する「タスマニアビーフ」「純輝鶏」、ウナギなど様々な商品を開発している。

オーガニック農産物の供給拡大を図るため、自治体や地元JJAとの連携を強化する。このうち宮崎県綾町との取組みでは、同町産のサニーレタス、サツマイモ、ニンジンなどのオーガニック野菜をイオン宮崎店で「トップバリュ グリーンアイオーガニック」として販売を開始。同町では町をあげてオーガニック農業を推進し、有機JAS登録認証機関の資格を有する日本初の自治体でもある。イオンでの販売により販路拡大、販売力の強化につなげる。



2シリーズのうち、「トップバリュ グリーンアイオーガニック」は農産物とそれらを使用した加工品からなり、農産物ではすべて有機JAS認証を取得。日本の小売業が展開するオーガ



ニック食品プライベートブランドで、最大規模に成長している。誕生30周年を機に、生産者とのパートナーシップの強化、商品拡大などに取組んでいく。

また、イオングループの農業法人・イオンアグリ創造の4農場で栽培されたオーガニック農産物を「トップバリュ グリーンアイオーガニック」

に統一する。これらに加え、オーガニック原材料を使用した加工品の開発も強化。先月には冷凍のカットほうれん草、コマツナなどを発売（写真）。素材の味と栄養を活かしつつ、調理の時間の短縮、簡便性を高めた付加価値の高い商品の展開を拡大していく。